

3 研修の歩み

【主題設定の理由】

本校では2019年度から研究領域を国語科に設定し、一人ひとりが「考える力」を身につけ表現していくことが必要であるとの認識から研修を進めてきた。考える力をつけるには、筋道を立てて考えることや根拠を基に意見をもつことを学ぶ必要がある。そこで、国語の説明文に的を絞って研究し、叙述に沿って読解したり筆者の説明の工夫や主張を学習したりすることで、論理的な思考力を身につけさせたいと考えた。論理的な思考力を養い、書く・話すという表現活動の場を適切に設定することで、主体的・対話的な学びを実現できるのではないかと考えた。

【本校のめざす国語科の授業】

○児童が主体的に考えようとする課題の工夫

(5年)「要旨にもっとも必要なキーワードは「多様」か「共通性」か」(「見立てる、生き物は円柱形」)

(4年)「筆者が7段落を書いた理由を説明しよう」(「アップとルーズで伝える」)

児童が叙述から課題に対する根拠を考えることで、思考や対話が深まる。

○論理的思考を育てるための視点の提示

「問いと答え」「対比と類比」「因果関係」等、叙述から根拠を見つけるための視点を持たせる。

○学びへの意欲を継続し高めるための単元構想

(6年)『鳥獣戯画・・・』→「IPPON グランプリをしよう」

(3年)『大豆のひみつ』→「大豆からきな粉を作ろう」

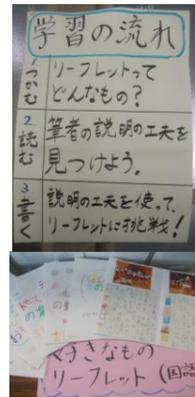
○教科横断的な言語能力の育成

「ふるさと学習」や他教科においても言語活動を中心に据え、表現の場を活かす。

●言語力を伸ばす手立て

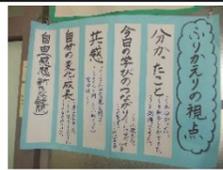
つけたい書く力とは・・・自分の思いや考えを豊かな語彙、表現で明快に書く。

つけたい話す力とは・・・意見に根拠を持ち、場に合った表現で柔軟に伝える。



4 野登小授業スタイル

授業展開	内容	留意点
1 つかむ	「めあて」の提示 (青)	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習に見通しをもたせ、意欲を引き出すめあてを設定する。 めあてに子どもの疑問や問いかけを活かす。 具体的な学習活動を示す。
2 考える	自分の考えを書く。	<ul style="list-style-type: none"> 考えの根拠となるものを明確にする。 文中の言葉 挿絵 (写真)・図・グラフ等の資料 これまでの話し合い (掲示物で提示) 各自の知識や経験 本文をていねいに読ませながら、筆者の伝えたいことを読み取らせる。 思考のプロセスがわかるノートづくりをさせる。
3 話し合う 深める	ペアまたはグループで話し合う。 全員で交流する。	<ul style="list-style-type: none"> 板書で意見を整理する。 一人ひとりの考えを多様な方法で伝え合わせる。 対話が深まるよう児童の考えを教師がつなぐ。 意見の違いや共通点にも注目させながら、話し合いを深める場を設定する。
4 まとめる ふりかえる	めあてに対する「振り返り」を自分の言葉でまとめさせる。(赤)	<ul style="list-style-type: none"> つけたい力を身につけることができたか、学習のめあてや過程は適切だったかを検討し、次時の課題に活かす。 <p style="text-align: right;">ふりかえりの視点→</p>



2020年度 亀山市立野登小学校 研究デザイン

教育大綱 基本方針一

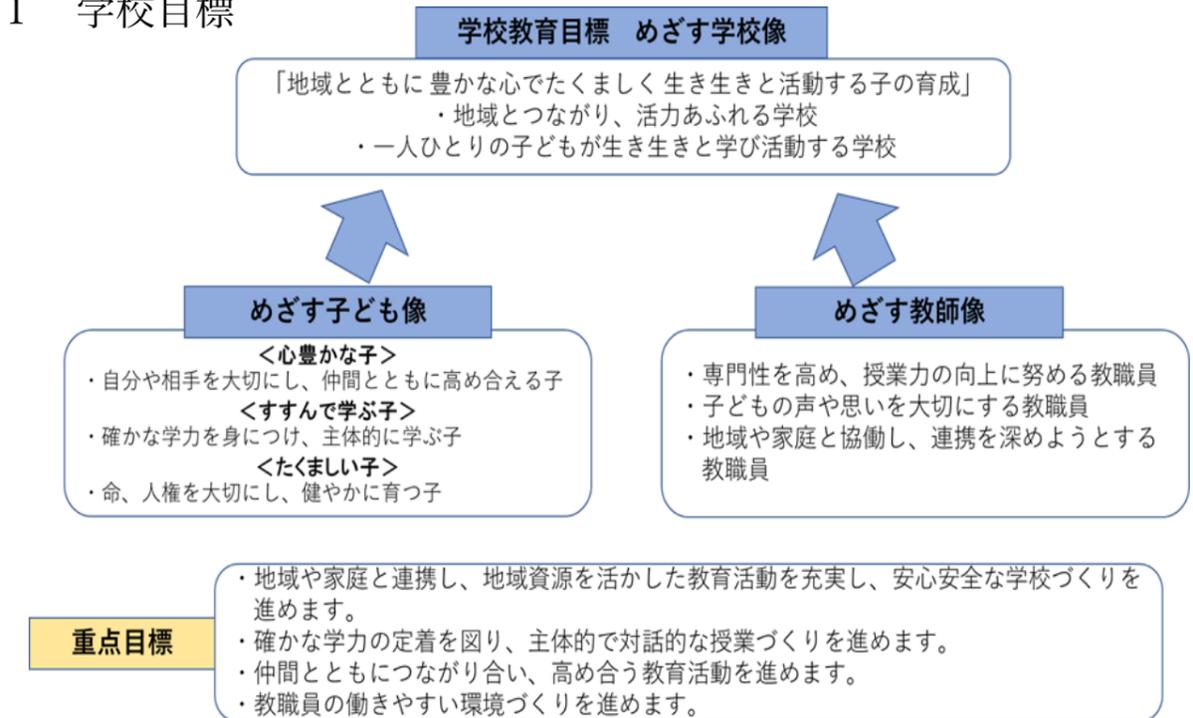
未来を拓く子どもたちの豊かな学びの実現

亀山市教育関係職員 研修基本方針

「一人ひとりの児童・生徒が個性を生きながら なかまとともに主体的に学ぶために」

- すべての子どもの学ぶ意欲を高め、社会で生きてはたらく「確かな学力」を育てる教育活動をすすめる。
- 教師の授業力向上を追求するとともに、系統的な指導をすすめる。
- 人権を尊重し、なかまとともに、豊かな心と身体をはぐぐみ、自己肯定感・自己有用感を高める教育活動をすすめる。
- 地域の人材や活動を活用し、地域とともに特色ある教育活動をすすめる。

1 学校目標



野登小の特色ある取組 ～ふるさと学習～

- ☆ ののぼりの自然から学ぼう
 ・里山探検 ・安楽川の生き物 ・ミツマタから野登和紙作り
- ☆ ののぼりの文化や歴史から学ぼう
 ・古墳 ・不動院地下工場
- ☆ ののぼりの達人から学ぼう
 ・俳句作り ・ろうけつ染め ・でか書道 ・米作り ・お茶作り



2 野登小研修グランドデザイン

考えることを楽しみ、学びをつなぐ言語力の育成

国語科～説明文を通して、書く力、話す力を伸ばす～

何ができるようになるか
育成する資質・能力

- ・日常生活において必要な言語を適切に使うことができる知識・技能
- ・説明文から論理的な展開や表現を学び、使うことができるようになる資質・能力
- ・順序立て筋道立てて考える力・話す力
- ・自分の考えを明確にしてわかりやすく書く力
- ・読書活動から身につける豊富な語彙力
- ・豊かな言語感覚

何を学ぶか
教育課程の編成

- ・児童が主体的に取り組もうとする授業展開をする。
- ・国語で身につけた資質や能力を発信できる場を設定する。
- ・「野登に学ぶ教育活動」（ふるさと学習）を系統的、計画的に実施する。
- ・朝の短時間学習を計画的に実施する。
- ・学校図書館を活用した教育活動。
- ・各学年年間指導計画の作成と充実。

授業改善および学力向上

- ・1人1回研究授業を行い、授業力の専門性を高める。
- ・外部講師（三重大学 守田先生、放送大学 塩谷先生）の専門的な助言による授業力の向上。
- ・基礎学力定着のための補充学習の充実
- ・一人ひとりの学習意欲を高める習熟度別授業
- ・基礎学力の定着を図るための効果的な家庭学習
- ・家庭学習の習慣化

児童の実態

- ・穏やかで落ち着いて、まじめに取り組む。
- ・表現力やコミュニケーション力が乏しい。
- ・論理的に考え、書いて説明する力が弱い。



目指す児童の姿

- ・自分の思いや考えを、すすんで話したり書いたりする子
- ・みんなと一緒に課題解決に取り組む子
- ・相手の話をよく聞き、認め合える子



保護者や地域の願い

コミュニケーション力を身につけてほしい。※1

実施するために何が必要か

指導体制の充実、家庭や地域との連携

開かれた学校づくり

- ・学校運営協議会を軸とした学校運営
- ・あいさつ運動の推進
- ・家庭と連携したノーゲーム・ノースマホデイの実施
- ・地域との連携による学校行事の充実
- ・学校からの情報発信

児童の発達支援

- ・「子どもの理解委員会」による支援方法の検討
- ・低・中・高別人権集会の充実
- ・「野登小のやくそく」による生活規律の確立
- ・なかよし班活動による自治的活動の推進
- ・保幼小中の連携によるとぎれのない支援

安心・安全を守る

- ・地域とともに実施する防災訓練・防災学習
- ・地域の見守りによる登下校の安全
- ・交通安全教室、防犯教室の実施

何が身についたか
学習評価

- ・他教科や日常生活において、言語活動に広がりがあったか。
- ・理由や根拠をもとに話したり書いたりすることができたか。
- ・進んで読書し、語彙を増やすことができたか。

どのように学ぶか
授業の実施

- ・説明文の読解から論理的思考や表現を学ばせる。
- ・ペアやグループの協働学習場面を、授業に位置付ける。
- ・「めあての提示」と「ふりかえり活動」を工夫する。
- ・「野登小学校 学習の約束8」により学習規律を確立する。
- ・野登小授業スタイルを確立する。
- ・なかよし集会における表現活動を充実させる。
- ・他教科と関連付け、身についた力を活用する。
- ・「ことばの宝箱」等を活用して語彙を増やし、豊かな表現活動につなげる。
- ・プログラミング教育、道徳、英語の研修の推進

※1 学校における教育や指導に何を期待しますか。
(2019年度 学校評価アンケートより)

1 学習意欲 2 教科の学力 3 体力 4 コミュニケーション力 5 外国語 6 規範意識や思いやる心
7 地域や社会に貢献する態度 8 将来の進路 9 健康や食 10 コンピュータの活用 11 その他

地域が学校に期待するのは ① コミュニケーション力 ② 体力やスポーツの力 ・規範意識や思いやる心 ③ 地域や社会に貢献	保護者が学校に期待するのは ① コミュニケーション力 ② 学習意欲 ③ 規範意識や思いやる心
--	---

